

4 履修案内  
2-2 専攻科目

英語英文学科

# 英語英文学科履修案内

(2010から2013年度入学者に適用)

## 【英語英文学科の教育目標】

今日、英語は国際語として定着し、これからは文化的背景を異にする人々と英語を使って交流する機会がますます増えてくるだろう。英語英文学科では、高度の英語コミュニケーション能力を育成するとともに、英語学、英語教育、英語圏文学、英語圏文化の学修を通して、異文化と人間の普遍性についての深い見識をもち、国際化の環境の中で様々な課題に取り組む能力を備えた人材を養成する。

## 【カリキュラムの概要と特色】

英語英文学科のカリキュラムは、1. 専攻科目〔A群・B群科目と関連科目〕(96単位以上)、2. 共通科目〔FYS(2単位必修)、外国語科目(8単位以上)、教養系科目(22単位以上)〕(32単位以上)の2つの枠組みから成り立っている。卒業するためには、これらの科目を含めて128単位以上修得しなければならない。

## 【専攻科目の履修要領】

カリキュラムには、小規模クラスによるA群演習科目群と、文学を含む英語圏文化の研究と英語を中心とした言語研究を主軸とするB群講義科目群とが置かれている。1、2年次のA群科目は専門分野の学修の基礎となる英語運用力の育成を主目的としているが、3年次以降のA群科目は、各専門分野の具体的なテーマについて学ぶ、あるいは、より高度な英語運用力の育成を目的としたものから成る。専門教育は1年次から開始されるが、3年次になるとより明確な形で「英語学」(英語教育を含む)、「英米文学」、「英米文化」の3分野に分かれる。これは同じ英語に関わる研究といっても、どのような側面を中心にするかによって修得の方向に違いが生じるからである。研究課題を決めるためにも、1・2年次においては、広くさまざまな科目をバランスよく履修して、自分の関心と適性がどこにあるかをしっかり見極めておくことが大切である。さらに、1年次から「卒業論文」(4年次)に至る専門研究の道筋を組み立てることもまた重要である。

授業科目については「年次」を用いて配当しているが、開講形式としては Semester制をとっている。英語英文学科の「教育課程表」の〔履修要件〕と〔卒業要件〕をよく読んで、単位修得の要領を把握すること。

### 1 A群とB群について

専攻科目について言えば、大きくA群・B群科目と関連科目とに分かれている。

A群は、「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」(2年次)、「専門研究Ⅰ・Ⅱ」(3年次)、「卒業論文」(4年次)以外はすべて演習を主体とする科目である。つまり、英語の読解力、聴解力、表現力など運用力を総合的につけることに力点を置く科目群であり、3・4年次ではさらに3つの専門分野についての演習形式の授業も含まれる。なお、A群科目の単位は、「専門研究Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」「スタディー・イングリッシュ・アブロード(SEA)」を除いてすべて1科目1単位で、A群必修46単位を満たすためには、B群必修30単位は15科目でよいのに比べて、多くの科目を履修しなければならないことがわかるであろう。これは運用能力を高めるためである。

A群が演習科目であるのに対して、B群は英語学、英米文学、英米の文化・社会に関する知識を身につけるための講義科目である。この授業形態の違いにより、授業への準備を含む履修者の自己学習の内容も変わり、A群/B群の違いは、単に単位数の違いでないことを理解しなくてはならない。

### 2 専門基礎科目について

A群の中で、1・2年次の科目には専門基礎科目として、聴く、話す、読む、書くという英語の基礎運用能力の強化・充実をはかるために、文法、作文、会話、音声学、時事英語、講読、L.L.、資格・検定英語と各種の演習科目が配置されている。専門基礎科目からは20単位以上を修得しなければならないが、2年次終了時までにはA群専門基礎科目の修得単位数が16単位未満の者は、3・4年次配当のA群科目を履修できないので特に注意が必要である。

### 3 3分野について

3・4年次の専攻科目には「英語学」(英語教育を含む)、「英米文学」、「英米文化」の3分野に区分された選択必修科

目が置かれている。卒業要件として、3分野からそれぞれA群の選択必修科目を4単位以上、及びB群の選択必修科目を8単位以上修得しなければならない。

#### ●英語学の分野

英語という言語の音声、構造と意味、機能と使用に関わる理論及びその歴史を学びながら、「英語について」の知識を深めるとともに、英語運用能力を涵養し、「英語を知る」ことにも力を注ぐ。さらに、将来、英語教員を志望する学生のための英語教育への応用もこの分野で取り扱う。

#### ●英米文学の分野

英語で書かれた詩や小説、演劇、批評などを解説しながら言葉の精妙な働きを学ぶとともに、作品が生み出された文化的・歴史的背景を研究し、人間や社会への洞察を深める。

#### ●英米文化の分野

英語圏の文化に関する理解力・洞察力を養うことを目的とする。具体的な研究分野は多岐にわたり、特定の国・社会の制度・歴史・思想などを考察する地域研究に加え、国家間に生じる問題を取り扱う国際関係論や他文化との比較研究も範囲に含まれる。また、文化間の交流に焦点をあてた異文化コミュニケーション研究や映画などの文化表象の批評も射程に入る。

### 4 共通科目（コミュニケーション）について

A群の共通科目（コミュニケーション）は、三つのいずれの分野を学ぶ上にも必要な、英語の高度な表現力養成のために設置された科目である。1・2年次の英会話や英作文の延長線上にある上級コースと考えてよい。表現力を音声言語（オーラル・コミュニケーション、スピーチ・ディベート、通訳演習）と文字言語（エフェクティブ・ライティング、翻訳演習）の両面から強化し、英語によるコミュニケーションの実践能力を高めるための科目である。

### 5 専門研究について

さまざまな学問の領域に興味と関心を持ち、視野の拡大を図ることは大学教育の目的の一つであるが、何を専門的に研究するかを自ら定め、その研究に関連する分野について重点的に学修することも、それに劣らず重要である。

専門研究は、2年次の専門基礎科目「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」で修得したやや専門的内容の英文読解力、リサーチスキル、論文作成法、プレゼンテーションスキル等をもとに、3年次の「専門研究Ⅰ・Ⅱ」で特定の研究課題に取り組み、英語又は日本語による卒業論文の作成準備を開始し、4年次の「卒業論文」で4年間の学修の集大成ともいべき卒業論文を完成することを目的とする。専門研究は必修ではないが、学科カリキュラムの基幹として位置づけられており、多くの学生の履修が望まれる。

専門研究の履修及び卒業論文の作成・提出等についての詳細は、学科所定の『専門研究要項』、説明会や掲示等により指示するが、次の3点を挙げておく。

- (1) 「基礎研究Ⅰ」（1単位）、「基礎研究Ⅱ」（1単位）、「専門研究Ⅰ」（2単位）、「専門研究Ⅱ」（2単位）及び「卒業論文」（4単位）は3年間継続して履修することを原則とする。
- (2) 「専門研究Ⅰ」の履修を希望する者は、2年次後学期（4セメスター）に履修希望届を提出し、面接・選考を経て3年次の前学期（5セメスター）に履修登録をする。
- (3) 卒業論文は、所定の提出日時に遅れた場合は受理されない。

なお、専門研究を履修しない者は、「卒業論文」も履修できず、その代わりにA群から必要単位数を履修しなければならないので、十分注意すること。

### 6 関連科目について

卒業するためには、関連科目として、「情報処理Ⅰ・Ⅱ」・「卒業要件単位数」を超える専攻科目（A・B群科目）・共通科目（外国語科目・教養系科目）、「教職に関する科目」、他学部他学科開講の専攻科目から20単位以上を修得しなければならない。

※大学が定める所定の手続きを経て、海外留学が許可された者の履修方法については、別途「留学生に関する取扱内規」に従うこと。

## 【共通科目の履修要領】

「FYS（ファースト・イヤー・セミナー）」は2単位必修，外国語科目はドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語のうち，各自が選んだ1外国語8単位が必修である。必修8単位は初級4単位と中級4単位をもって充当する。更に高度な運用能力の修得を希望する者は上級を履修することができる。（英語英文学科では英語を除いた上記のものを外国語科目として扱う。）教養系科目は，22単位以上を履修しなければならない。ただし，この22単位の中には最低，「人文の分野」，「社会の分野」，「自然の分野」の3分野からそれぞれ4単位，全体から10単位が含まれていなければならない。

## 【履修単位の上限】

一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合には，その科目の単位数を二分割し，前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし，4年次に限り特別の事情のある者は，学部長に申請することにより，卒業要件単位数の不定分を上限として，超過履修を許可される場合がある。なお，卒業要件単位に算入されない各種課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。

2017年度 外国語学部英語英文学科 教育課程表(2010から2013年度入学者に適用)

(学年は標準年次を示す)

専攻科目	群	1年次		2年次				3年次				4年次				卒業要件 単位数			
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター			8セメスター		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		授業科目	単位	
A	専門基礎科目	☆英文法演習 I	1	☆英語研究入門	2	☆英作文Ⅲ	1	☆英作文Ⅳ	1									20 以上	
		☆英作文 I	1	☆英文法演習 II	1	☆英会話Ⅲ	1	☆英会話Ⅳ	1										
		☆英会話 I	1	☆英作文 II	1	☆L.L.演習 I	1	☆L.L.演習 II	1										
		☆英語音声学演習 I	1	☆英会話 II	1	英語学講読演習 I	1	英語学講読演習 II	1										
		☆時事英語 I	1	☆英語音声学演習 II	1	英米文学講読演習 I	1	英米文学講読演習 II	1										
		特別英会話 I【休講】	1	☆時事英語 II	1	英米文化講読演習 I	1	英米文化講読演習 II	1										
				資格・検定英語 I【休講】	1	資格・検定英語 II【休講】	1												
				特別英会話 II【休講】	1	特別英会話 III【休講】	1	特別英会話 IV【休講】	1										
						基礎研究 I	1	基礎研究 II	1										
								★スターデー・イングリッシュ・アブロード (SEA)	5										
B	選択必修科目	英語学							英語学演習 A I	1	英語学演習 A II	1	英語学演習 C I	1	英語学演習 C II	1	1	各分野 4以上	
		英米文学							英語学演習 B I	1	英語学演習 B II	1	英語学演習 D I	1	英語学演習 D II	1	1		
		英米文化							英米文学演習 A I	1	英米文学演習 A II	1	英米文学演習 C I	1	英米文学演習 C II	1	1		
									英米文学演習 B I	1	英米文学演習 B II	1	英米文学演習 D I	1	英米文学演習 D II	1	1		
									英米文化演習 A I	1	英米文化演習 A II	1	英米文化演習 C I	1	英米文化演習 C II	1	1		
									英米文化演習 B I	1	英米文化演習 B II	1	英米文化演習 D I	1	英米文化演習 D II	1	1		
									オーラル・コミュニケーション I	1	オーラル・コミュニケーション II	1	スピーチ・デバート I	1	スピーチ・デバート II	1	1		
									エフェクティブ・ライティング I	1	エフェクティブ・ライティング II	1	通訳演習 I	1	通訳演習 II	1	1		
												翻訳演習 I	1	翻訳演習 II	1	1			
B	選択必修科目	英語学	英語学概論 I	2	英語学概論 II	2	英語史 I	2	英語史 II	2	英語学特講 I-I	2	英語学特講 I-II	2	英語教育学概論 I	2	英語教育学概論 II	2	各分野 8以上
		英米文学	英米文学概論 I	2	英米文学概論 II	2	音声学 I	2	音声学 II	2	英語学特講 II-I	2	英語学特講 II-II	2	児童英語教育 I	2	児童英語教育 II	2	
		英米文化	英米文化概論 I	2	英米文化概論 II	2	イギリス文学史 I	2	イギリス文学史 II	2	英米文学特講 I-I	2	英米文学特講 I-II	2	比較文学 I	2	比較文学 II	2	
			英米文化概論 I	2	英米文化概論 II	2	アメリカ文学史 I	2	アメリカ文学史 II	2	英米文学特講 II-I	2	英米文学特講 II-II	2	翻訳論 I	2	翻訳論 II	2	
B	選択必修科目	英米文化	英米文化概論 I	2	英米文化概論 II	2	イギリス文化史 I	2	イギリス文化史 II	2	英米文化特講 I-I	2	英米文化特講 I-II	2	比較文化論 I	2	比較文化論 II	2	各分野 8以上
			英米文化概論 I	2	英米文化概論 II	2	アメリカ文化史 I	2	アメリカ文化史 II	2	英米文化特講 II-I	2	英米文化特講 II-II	2	異文化間コミュニケーション論 I	2	異文化間コミュニケーション論 II	2	
関連科目	情報処理 I	2	情報処理 II	2	「卒業要件単位数」を超える専攻科目(A・B群科目)・共通科目(外国語科目・教養系科目),「教職に関する科目」,他学部他学科開講の専攻科目														

46  
以上

4  
以上

30  
以上

〔備考〕

- ☆印は受講するクラスが指定される授業科目を示す。
- ★印は2012年度新設科目を示す。

〔履修要件〕

- 同一授業科目を重複して履修することはできない。
- 一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は、その科目の単位数を二分割し、前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし、4年次に限り特別の事情のある者は、学部長に申請することにより、卒業要件単位数の不足分を上限として、超過履修を許可される場合がある。なお、卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
- 専攻科目の中には履修資格や人数を制限する科目がある。
- 専門研究について
  - 「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」「専門研究Ⅰ・Ⅱ」および「卒業論文」を3年間継続して履修することを原則とする。
  - 「専門研究Ⅰ」の履修を希望する者は、学科所定の『専門研究要項』に基づき、2年次後学期（4セメスター）に履修希望届を提出して、3年次の前学期（5セメスター）に履修登録をする。『専門研究要項』については別途指示する。
  - 他学部・他学科の学生は「基礎研究Ⅰ・Ⅱ」「専門研究Ⅰ・Ⅱ」および「卒業論文」を履修することができない。
- 2年次終了時までA群専門基礎科目の修得単位数が16単位未満の者は、3・4年次配当のA群科目を履修できない。
- 「スタディー・イングリッシュ・アブロード（SEA）」は、外国語学部の学生を対象とし、他学部の学生は、履修することができない。

〔学外単位認定制度〕

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件単位に算入することができる。なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限単位数に含める。ただし、2012年度以前の入学者については、各セメスターの履修制限単位数には含めない。

- 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所定の手続きにより認定された単位。
- 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で、本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

- 4年以上在学し、学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目 入学年度	共通科目							専攻科目							合計						
	F Y S	外国語科目	教養系科目				共通科目合計	A群				B群				関連科目	専攻科目合計				
			キャリア形成科目	人文の分野	社会の分野	自然の分野		健康科学の分野	選択必修科目			選択科目	選択必修科目								
									英語学	英米文学	英米文化		共通科目 (コミュニケーション)	専門研究				英語学	英米文学	英米文化	
2010から 2013年度入学	2	8		4	4	4		32	20	4	4	4	4		8	8	8	20	96	128	
			10					10					6								

- 共通科目「FYS」2単位を修得すること。
- 外国語科目を8単位以上修得すること。
- 教養系科目については、次の単位を含めて22単位以上修得すること。
  - 人文の分野を4単位以上。
  - 社会の分野を4単位以上。
  - 自然の分野を4単位以上。
- A群から次の単位を含めて、46単位以上を修得すること。
  - 1・2年次の専門基礎科目から20単位以上。
  - 3・4年次の英語学、英米文学、英米文化の3分野からそれぞれ4単位以上。
  - 共通科目（コミュニケーション）から4単位以上。
- B群の選択必修科目から次の単位を含めて、30単位以上を修得すること。
  - 英語学、英米文学、英米文化の3分野からそれぞれ8単位以上。
- 関連科目から20単位以上を修得すること。  
関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
  - 共通科目（外国語科目・教養系科目）、専攻科目（A・B群科目）の「卒業要件単位数」を超える単位。
  - 教職課程登録者が修得した「教職に関する科目」の単位。（上限6単位）
  - 他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし、他学部・他学科が受講を認めない科目については、履修することができない。

— 教育課程における標準年次の区切線について —

- 標準年次が実線（——）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- 標準年次が破線（……）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できますが、〔履修要件〕等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。

4 履修案内  
2-2 専攻科目

スペイン語学科

# スペイン語学科履修案内

(2010から2013年度入学者に適用)

## 【スペイン語学科の教育目標】

スペイン語学科の基本方針は、スペイン語を十分に身につけるとともに、スペイン語圏諸国の社会、文化、政治、経済などについて知識を深めることにある。同時に、英語が国際言語として重要な役割を果たしていることから、スペイン語とともに英語の能力を高め、二つの言語を駆使して国際社会で活躍できるよう、英語コミュニケーション特修副専攻コースを設けている。

このように本学科は国際社会で活躍する人材を育成することを目標としている。

## 【カリキュラムの概要と特色】

2010年度から2013年度までの入学生には2010年度に導入されたカリキュラムが適用される。2014年度の入学生から適用されるカリキュラムとは細かな点で変更があるので、履修の際には注意が必要である。

スペイン語の学修については文法、講読、作文などのほかに、ネイティブによるコミュニケーションの授業にも力を注ぎ、総合的なスペイン語の運用能力を修得することを目標としている。

1年次および2年次にはスペイン語の学修が中心になる。3年次からは、スペイン語能力を一層強化するとともに、スペイン語圏諸国の文化や社会について学ぶ。そのため、言語研究、文学研究、地域事情研究など多くの科目が設けられている。

このほか、幅広い教養を備えた社会人の育成を目指し、他学部・他学科の開講科目も履修することができるようになっている。

海外留学にも力を入れており、毎年スペインのサラマンカ大学へ長期派遣留学生や短期語学研修生を送っている。また、本学科が認定するスペイン語圏諸国の大学に長期留学した場合も含め、留学先の大学で修得した科目は教授会の議を経て本学の卒業単位に換算されるため、4年間で大学を卒業することが可能となっている。

このように、各自の関心や将来の生活設計にしたいが、スペイン語の修得をベースにしなが、4年間の学修計画が自由に設計できるようになっているので、できるだけ早く方針を定め、意識的に履修科目を決定してほしい。

本学科では Semester制（半期制）が採られている。これは4年を8学期に分け、半期ごとに成績がつく制度であるが、科目により異なる点があるので、シラバス（講義要項）をよく読むこと。

本学科の科目はA群（必修科目と選択必修科目）、B群（スペイン語圏の言語、文化、社会などの研究のための選択必修科目）、関連科目群から構成される。

A群科目はスペイン語の修得のための科目であり、これは必修科目と選択必修科目とから構成される。後者の選択必修科目では各自の関心に基づき履修科目を選ぶことができる。たとえばコミュニケーション能力を特に向上させたい学生は少人数制の特修スペイン語科目を中心に履修したり、あるいは読解力を高めたい学生は講読科目を中心に履修するなどの方法がある。

3年次から本格的に始まるB群科目でも、同じく言語、文学、地域事情研究などの科目のなかから各自の関心にしたい履修科目を選択する。地域事情研究については、スペインとラテンアメリカの両地域の科目が設けられている。

関連科目では原則として本学の全学部全学科の専攻科目の履修が可能であり、各自が卒業後の進路にしたいが、たとえば英語科目中心、その他の外国語科目中心、国際関係科目中心といった風に、自由に履修科目を構成することができる。

なお、英語コミュニケーション特修副専攻コースの科目もこの関連科目に含まれる。

また、全学で実施される副専攻に含まれる他学部他学科の科目を履修した場合にも、この関連科目の卒業単位として認められる。

### (1) 英語コミュニケーション特修副専攻コースについて

#### 〔教育目標〕

スペインやラテンアメリカ諸国の人々と交流し、理解し合うためには、何よりもまずスペイン語を十分に使いこなさなければならない。したがって、スペイン語学科の学生としては、まずスペイン語をしっかりと身につけ、スペイン語圏諸国の社会、文化、政治、経済などについて理解を深めることが必要である。

しかし、ラテンアメリカには英語を母語とする国々もあるだけでなく、現在、世界の共通語として英語の重要性は高まっている。国際理解を深め、世界で活躍するには英語は不可欠である。

この副専攻コースでは、高校まで学習してきた英語のコミュニケーション能力をいっそう高め、スペイン語と英語の二つの外国語を駆使して国際社会で活躍できる人材を育成することを目指す。

[履修についての注意]

この副専攻コースは外国語学部国際文化交流学科とタイアップしたものである。

1. 外国語科目ならびに国際文化交流学科専攻科目の英語科目のうち、スペイン語学科が副専攻コース科目として指定する科目を、22単位以上修得した場合に、修了証書が授与される。
2. 副専攻の登録は、1年次後学期（1年次修了時）に行う。詳細は4月のガイダンスで説明する。
3. 履修資格や人数に制約がある科目もあるので、国際文化交流学科のシラバス等に十分注意すること。
4. 副専攻科目として指定された科目の修得単位は、関連科目の単位として卒業要件単位に算入することができる。これは修得単位数が合計22単位に満たない場合も同様である。

「英語コミュニケーション特修副専攻」指定科目

配当群	1 ～ 4 年次				単位数	修了要件
	授業科目 (国際文化交流学科開講の専攻科目)	単位	授業科目 (外国語科目)	単位		
関連科目	英語表現演習 A I	1	英語 (Oral Communication Skills) A III	2	22 単 位 以 上	
	英語表現演習 A II	1	英語 (Oral Communication Skills) A IV	2		
	英語表現演習 B I	1	英語 (Oral Communication Skills) A V	2		
	英語表現演習 B II	1	英語 (Oral Communication Skills) A VI	2		
	英語分野演習 A I	1	英語 (Oral Communication Skills) B III	2		
	英語分野演習 A II	1	英語 (Oral Communication Skills) B IV	2		
	英語分野演習 B I	1	英語 (Oral Communication Skills) B V	2		
	英語分野演習 B II	1	英語 (Oral Communication Skills) B VI	2		
	英語分野演習 C I	1	英語 (Oral Communication Skills) B VII	2		
	英語分野演習 C II	1	英語読解・上級 I	1		
	英語分野演習 D I	1	英語読解・上級 II	1		
	英語分野演習 D II	1	英語作文・中級 I	1		
	英語日本文化演習 I	1	英語作文・中級 II	1		
	英語日本文化演習 II	1	英語作文・上級 I	1		
	英語国際文化演習 I	1	英語作文・上級 II	1		
	英語国際文化演習 II	1	英語会話・中級 I	1		
	英語CALL/LL演習 I	1	英語会話・中級 II	1		
	英語CALL/LL演習 II	1	英語会話・上級 I	1		
	英語海外研修	2	英語会話・上級 II	1		
			英語リスニング・中級 I	1		
			英語リスニング・中級 II	1		
			英語リスニング・上級 I	1		
		英語リスニング・上級 II	1			
		TOEIC演習・中級 I	1			
		TOEIC演習・中級 II	1			
		TOEIC演習・上級 I	1			
		TOEIC演習・上級 II	1			

(2) 日本語教員養成課程の履修について

日本語教員養成課程とは、日本語を母語としない人々に第二言語として日本語を教える教員の免許状を取得するための課程である。

今、日本にはラテンアメリカ諸国からやってくる「日系人」が増えているが、こうした人々にとって日本語の習得が

重要な課題となっている。また、ラテンアメリカ諸国内部でも日本語学習熱が高まっている。このように、今後、日本語教員の需要はますます増していくものと思われる。

スペイン語をきちんと習得した上で、日本語教員の資格をもつことができれば、社会で活躍する場が広がることになる。

1. 履修希望者は日本語教員養成課程説明会（4月）に必ず出席すること。
2. 履修方法については必ず資格教育課程（日本語教員養成課程）の履修要覧・シラバスを参照すること。
3. 国際文化交流学科専攻科目の「日本語教育研究科目群」（日本語教員養成課程の科目）は、関連科目単位として卒業要件単位に算入することができる。これにより、スペイン語学科学生にとって同課程を履修する際の負担はかなり軽減されている。
4. 日本語教員養成課程を修了するだけでなく、さらに、公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語教育能力検定試験」に合格することが望ましい。

日本語教育研究科目群は次表のとおり。

配当群	2 ～ 4 年 次				合 計
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	
関 連 科 目	現代日本語学Ⅰ	2	日本語教育学Ⅰ	2	22 単 位 以 上
	現代日本語学Ⅱ	2	日本語教育学Ⅱ	2	
	現代日本語学Ⅲ	2	言語習得論Ⅰ	2	
	言語学概論	2	言語習得論Ⅱ	2	
	社会言語学	2			
	対照言語学	2			

## 【履修要領】

- (1) 卒業要件単位数は126単位である。
- (2) A群必修科目の「スペイン語演習Ⅰ・Ⅱ」（合計20単位）の修得単位数が14単位未満の者は、3・4年次配当のA群科目を履修できない。
- (3) 原則として、A群必修科目は配当semesterで必ず履修登録しなければならない。なお未修得者・再履修者は、次に開講される学期で必ず履修登録しなければならない。
- (4) A群選択必修科目と、1・2年次に配当されているB群選択必修科目は、原則として、下位年次に配当されているものは履修することができない。
- (5) 専攻科目のほかに、共通科目から32単位（「FYS」2単位、「外国語科目」8単位、「教養系科目」22単位）以上を修得しなければならない。
- (6) 外国語科目は原則として英語8単位を修得しなければならない。

2017年度 外国語学部スペイン語学科 教育課程表(2010から2013年度入学者に適用)

(学年は標準年次を示す)

専攻科目	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 単位数										
	1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター												
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位											
A 必修科目	スペイン語演習 I (A-1)	1	スペイン語演習 I (A-2)	1	スペイン語演習 II (A-1)	1	スペイン語演習 II (A-2)	1	スペイン語演習 III (A-1)	1	スペイン語演習 III (A-2)	1	スペイン語演習 IV (A-1)	1	スペイン語演習 IV (A-2)	1	30		
	スペイン語演習 I (B-1)	1	スペイン語演習 I (B-2)	1	スペイン語演習 II (B-1)	1	スペイン語演習 II (B-2)	1	スペイン語演習 III (B-1)	1	スペイン語演習 III (B-2)	1	スペイン語演習 IV (B-1)	1	スペイン語演習 IV (B-2)	1			
	スペイン語演習 I (C-1)	1	スペイン語演習 I (C-2)	1	スペイン語演習 II (C-1)	1	スペイン語演習 II (C-2)	1	スペイン語演習 III (C-1)	1	スペイン語演習 III (C-2)	1							
	スペイン語演習 I (D-1)	1	スペイン語演習 I (D-2)	1	スペイン語演習 II (D-1)	1	スペイン語演習 II (D-2)	1											
	スペイン語演習 I (E-1)	1	スペイン語演習 I (E-2)	1	スペイン語演習 II (E-1)	1	スペイン語演習 II (E-2)	1											
	選択必修科目	スペイン語演習 I (F-1)	1	スペイン語演習 I (F-2)	1	スペイン語演習 II (F-1)	1	スペイン語演習 II (F-2)	1	スペイン語演習 III (E-1)	1	スペイン語演習 III (E-2)	1	スペイン語演習 III (D-1)	1	スペイン語演習 III (D-2)		1	8 以上
						特修スペイン語 I (A-1)	1	特修スペイン語 I (A-2)	1	特修スペイン語 II (A-1)	1	特修スペイン語 II (A-2)	1	スペイン語演習 III (F-1)	1	スペイン語演習 III (F-2)		1	
										実務スペイン語 I	1	実務スペイン語 II	1						
	B 選択必修科目	スペイン概論	2	スペイン概論	2	スペイン史 I	2	スペイン史 II	2	スペイン語学研究 I-1	2	スペイン語学研究 I-2	2						28 以上
		ラテンアメリカ概論	2	ラテンアメリカ概論	2	ラテンアメリカ史 I	2	ラテンアメリカ史 II	2	スペイン語学研究 II-1	2	スペイン語学研究 II-2	2						
									スペイン研究 I-1 (文学)	2	スペイン研究 I-2 (文学)	2							
									スペイン研究 II-1 (地域事情)	2	スペイン研究 II-2 (地域事情)	2							
									ラテンアメリカ研究 I-1 (文学)	2	ラテンアメリカ研究 I-2 (文学)	2							
									ラテンアメリカ研究 II-1 (現代研究)	2	ラテンアメリカ研究 II-2 (現代研究)	2							
									ラテンアメリカ研究 III-1 (地域事情)	2	ラテンアメリカ研究 III-2 (地域事情)	2							
									ラテン語 I-1	1	ラテン語 I-2	1							
									一般音声学 I	2	一般音声学 II	2							
									国際協力研修講座	2	国際協力研修講座	2							
関連科目	情報処理 I	2	情報処理 II	2	「英語コミュニケーション特修副専攻」で修得した単位 日本語教員養成課程登録者が修得した「国際文化交流学科開講の日本語教育研究科目群」の単位 上記以外の共通科目、他学部他学科開講の専攻科目および「教職に関する科目」										28 以上				

〔備考〕

- ★印は学期変更の授業科目を示す。

〔履修要件〕

- 同一授業科目を重複して履修することはできない。
- 一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は、その科目の単位数を二分割し、前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし、4年次に限り特別の事情のある者は、学部長に申請することにより、卒業要件単位数の不足分を上限として、超過履修を許可される場合がある。なお、卒業要件単位数に算入されない各種課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
- 専攻科目の中には履修資格や人数を制限する科目がある。
- A群必修科目の「スペイン語演習Ⅰ・Ⅱ」（合計20単位）の修得単位数が14単位未満の者は、3・4年次配当のA群科目を履修できない。

〔学外単位認定制度〕

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件単位数に算入することができる。なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限単位数に含める。ただし、2012年度以前の入学者については、各セメスターの履修制限単位数には含めない。

- 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所定の手続きにより認定された単位。
- 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で、本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

- 4年以上在学し、学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目 入学年度	共通科目							専攻科目				合計		
	FYS	外国語科目	教養系科目					共通科目合計	A群		B群		関連科目	専攻科目合計
			キャリア形成科目	人文の分野	社会の分野	自然の分野	健康科学の分野		必修科目	選択必修科目				
2010から 2013年度入学	2	8	-	4	4	4		32	30	8	28	28	94	126
				10										

- 共通科目「FYS」2単位を修得すること。
- 外国語科目を8単位以上修得すること。
- 共通科目教養系科目については、次の単位を含めて22単位以上修得すること。ただし、キャリア形成科目の単位は卒業要件単位数に算入しない。
  - 人文の分野を4単位以上。
  - 社会の分野を4単位以上。
  - 自然の分野を4単位以上。
- A群から次の単位を含めて、38単位以上を修得すること。
  - 必修科目30単位。
  - 選択必修科目8単位。
- B群の選択必修科目から28単位以上を修得すること。
- 関連科目から28単位以上を修得すること。  
関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
  - 共通科目（外国語科目・教養系科目）、専攻科目A群（選択必修科目）の「卒業要件単位数」を超える単位。
  - 教職課程登録者が修得した「教職に関する科目」の単位。（上限6単位）
  - 「英語コミュニケーション特修副専攻」を履修し、修得した単位。
  - 日本語教員養成課程登録者が修得した「国際文化交流学科開講の日本語教育研究科目群」の単位。
  - 他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし、他学部・他学科が受講を認めない科目については、履修することができない。

— 教育課程における標準年次の区切線について —

- ① 標準年次が実線（——）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- ② 標準年次が破線（……）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できますが、〔履修要件〕等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。

4 履修案内  
2-2 専攻科目

中国語学科

# 中国語学科履修案内

(2011から2013年度入学者に適用)

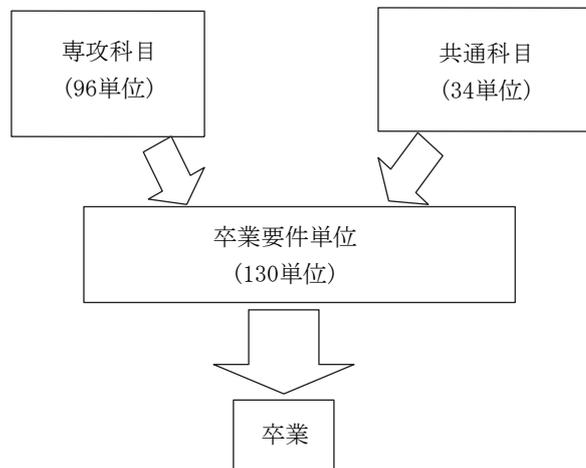
## 【中国語学科の教育目標】

中国語学科は、高度な中国語運用能力を身につけるとともに、中国の社会・文化についても深く専門的に学び、修得したそれらの能力・知識によって、日中間の経済・文化交流の場で活躍し得る有為な人材を育成することを教育目標としています。

## 【カリキュラムの概要と特色】

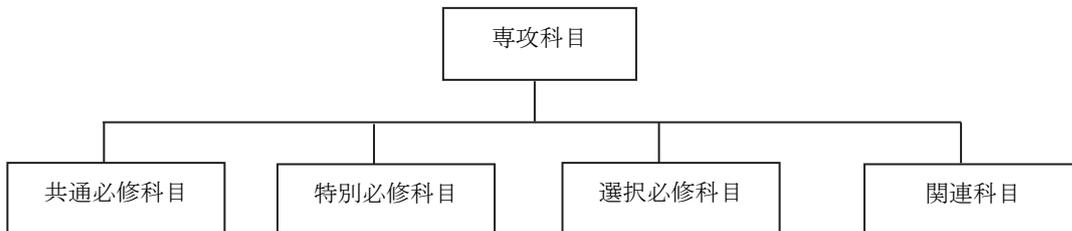
これから中国語学科のカリキュラムについて全体像と特徴を説明します。この履修案内を参考に「中国語学科教育課程表」に基づいて、履修計画を立て、履修登録を進めましょう。

中国語学科の卒業生として認定されるためには、「専攻科目(96単位)」と「共通科目(34単位)」の合計130単位を修得しなければなりません。カリキュラムの枠組み及び科目の種類について理解し、効率的かつバランスよく4年間の履修計画を立てましょう。



### 専攻科目

専攻科目は中国語学科生向けに開講されている「共通必修科目」、「特別必修科目」及び「選択必修科目」があります。このほか自分の専攻分野や興味・関心に応じて自由に選択できる「関連科目」があります。



#### ①共通必修科目、特別必修科目、選択必修科目

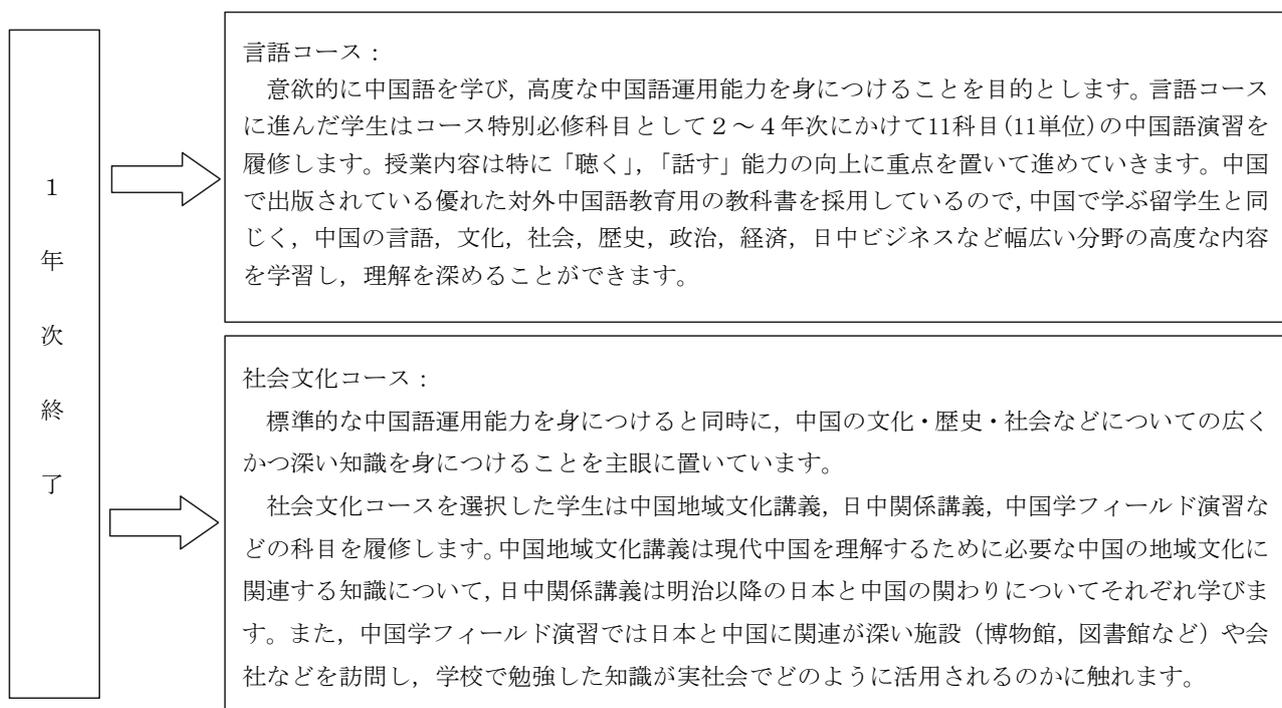
共通必修科目とは卒業するためにすべての中国語学科生が修得しなければならない科目です。特別必修科目とは2年次から分かれるコース別に用意された、各コース所属の学科生が修得しなければならない科目です(コースについては後述します)。選択必修科目とは複数の科目群の中から各自の興味・関心に応じて自由に選択できる科目で、A群、B群、C群の三種類があります。ただし、それぞれの群で一定の単位数を修得することが求められます。

これらの科目は授業形態によって、「語学演習形式科目」、「講義形式科目」、「ゼミナール形式科目」の三種類に大別されます。(次表参照)「語学演習形式科目」はトレーニングによって語学力を身に付けるための科目で、必修の中国語演習科目や選択必修の表現法演習科目などがあります。「講義形式科目」には講義形式によって専門的な知識を始め広く、次第に深く学ぶための概説科目と特講科目などがあります。この双方の学習を踏まえて、語学力と専門知識を総合的に鍛える科目として「ゼミナール形式科目」の中国学演習と中国学卒論演習があります。

	語学演習形式科目	講義形式科目	ゼミナール形式科目
共通 必修 科目	・ 1～3年次配当の中国語演習科目 (1年次はⅠ, 2年次はⅡ, 3年次はⅢ とローマ数字で学修年次を区別. 以下同 様)	・ 1年次配当 中国事情入門	・ 3年次配当 中国学演習 ・ 4年次配当 中国学卒論演習
特別 必修 科目	・ 言語コース 2～4年次配当の中国語演習科目 ・ 社会文化コース 3年次前期配当の中国語演習科目	・ 社会文化コース 2～3年次配当科目 (例えば, 中国地域文化 講義など)	X
選択 必修 科目	・ 2, 3年次配当 表現法演習科目(C群)	・ 1, 2年次配当 概説科目(A群) ・ 3年次配当 特講科目(B群)	X

#### [コース制]

中国語学科のカリキュラムは履修者が初めて中国語を学ぶという前提で組まれており、1年次は全員等しく必修の中国語演習科目を履修します。2年次からは学生個々の能力と特性に応じ、「言語コース」と「社会文化コース」に分かれます。それぞれのコースの特徴は次のとおりです。



各コースとも特別必修科目の要件単位数は11単位ですが、2～4年次に配当される単位数が異なる点に注意しましょう。2年次で言語コースは4単位、社会文化コースは8単位、3年次で言語コースは5単位、社会文化コースは3単位、4年次で言語コースは2単位、社会文化コースは配当なしです。

いずれのコースに属するにせよ、卒業まで中国語を読む、聴く、話す、書くというトレーニングをおろそかにはできません。「選択必修C群科目」はこうした目的で設置された科目です。特に言語コースの人は第5・6 Semesterに配当された「C群科目」の中から2単位以上修得しなければならないことに注意しましょう。

#### ②関連科目

専攻分野に関連して、更に幅広く、時により深く、また体系的に知識を身に付けていくために、学生諸君の関心に併せて、卒業単位を超えて履修した教養系科目と中国語学科の選択必修科目(A群・B群・C群)、他学部他学科開講の専攻科目、外国語科目などから自由に選択できるのが関連科目です。コースに関係なく、24単位以上修得する必要があります。



されています。特講科目とは、1・2年次を対象として展開される概説科目より深く専門知識を学ぶための科目です。概説科目と同様、直接関心のあるテーマだけでなく、卒業要件単位数を超えて履修することが望まれます。

④選択必修科目C群(上のB群を含め16単位以上)

C群の表現法演習科目は2・3・4年次を対象に開講されます。これらの表現法演習は10数名の少人数によるトレーニングを通して、中国語を表現する能力を身に付けます。内容は「会話」や「翻訳」といった表現力を身に付けるトレーニングのほか、表現力の基礎となる読む力を涵養する「読解応用」、中国留学を意識した「HSK入門・応用」、さらには中国語を駆使して働くことを想定した「ビジネス」など多岐に渡っています。バランスよく履修して、表現力豊かな中国語運用能力を身に付けましょう。

言語コースの人はこの16単位の中に、第5・6セメスターに配当されている10科目の中から2単位以上を含めなければなりません。

⑤中国学演習（必修4単位）

いわゆるゼミナールに相当する3年次対象の必修科目で、文献輪読やディスカッション、調査を通して、専門分野について高度な知識を修得することを目指します。同時に、図書館やインターネットを利用した文献検索の方法、現地調査やインタビューの方法、書物や論文のまとめ方、ゼミでの報告と討論の方法、ハンドアウトやレポートの書き方など、社会で必要とされる技術を修得します。なお、学科以外で開講されるゼミナールを同時に履修することが可能です。

⑥中国学卒論演習（必修8単位）

卒論演習は、原則として、3年次の中国学演習がそのまま持ち上がるものとし、ゼミナール、論文(20,000字程度以上)、口述試験をその内容とします。

⑦語学研修

本学主催の派遣語学研修に参加し、所定の時間学習した場合、選択必修C群の演習科目2科目に相当するものとして2単位を認定します。

## 【進級要件】（2年次から3年次）

- ①2年次終了までに次の②、③の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち、60単位以上修得しなくてはならない。
- ②外国語科目（英語）4単位以上。
- ③「言語コース」は1・2年次共通必修科目及び特別必修科目のうち中国語演習16単位以上。  
「社会文化コース」は1・2年次共通必修科目のうち中国語演習12単位以上。

2017年度 外国語学部中国語学科 教育課程表(2011から2013年度入学者に適用)

(学年は標準年次を示す)

	1年次		2年次				3年次				4年次				卒業要件 単位数					
	1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター			8セメスター				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		授業科目	単位			
共通必修科目	☆中国語演習 I a (基礎)A	1	☆中国語演習 I a (基礎)B	1	☆中国語演習 II a (総合)A	1	☆中国語演習 II a (総合)B	1	☆中国語演習 III a(総合)A	1	☆中国語演習 III a(総合)B	1	中国学卒論演習A	4	中国学卒論演習B	4	33			
	☆中国語演習 I b (基礎)A	1	☆中国語演習 I b (基礎)B	1	☆中国語演習 II b (作文)A	1	☆中国語演習 II b (作文)B	1	中国学演習A	2	中国学演習B	2	中国学卒論演習B【休講】	4	中国学卒論演習A【休講】	4				
	☆中国語演習 I c (リスニング)A	1	☆中国語演習 I c (リスニング)B	1	☆中国語演習 II c (リスニング)A	1	☆中国語演習 II c (リスニング)B	1												
	☆中国語演習 I d (会話)A	1	☆中国語演習 I d (会話)B	1	☆中国語演習 II d (コミュニケーション)A	1	☆中国語演習 II d (コミュニケーション)B	1												
特別必修科目群	中国事情入門【休講】				中国語演習 II e (コミュニケーション)A	1	中国語演習 II e (コミュニケーション)B	1	中国語演習 III b (コミュニケーション)A	1	中国語演習 III b (コミュニケーション)B	1	中国語演習 IV(総合)A	1	中国語演習 IV(総合)B	1	11			
					中国語演習 II f(翻訳)A	1	中国語演習 II f(翻訳)B	1	中国語演習 III c (リスニング)A	1	中国語演習 III c (リスニング)B	1								
専攻科目	A群		中国政治経済概説A 中国政治経済概説B 中国社会概説A 中国歴史概説A		中国政治経済概説B 中国社会概説B 中国歴史概説B ◆中国学概説 [夏期集中講義]		中国言語概説A 中国文学概説A		中国言語概説B 中国文学概説B								12 以上			
	B群						中国語表現法演習 II (HSK基礎)A		中国語表現法演習 II (HSK基礎)B		◆中国言語特講 I A ◆中国言語特講 I C【休講】 ◆中国言語特講 II A ◆中国言語特講 II C【休講】 ◆中国文化特講A ◆中国文化特講C【休講】 ◆中国歴史特講A ◆中国歴史特講C【休講】 ◆中国社会特講A ◆中国社会特講C【休講】 ◆中国政治経済特講A ◆中国政治経済特講C【休講】		◆中国言語特講 I B ◆中国言語特講 I D【休講】 ◆中国言語特講 II B ◆中国言語特講 II D【休講】 ◆中国文化特講B ◆中国文化特講D【休講】 ◆中国歴史特講B ◆中国歴史特講D【休講】 ◆中国社会特講B ◆中国社会特講D【休講】 ◆中国政治経済特講B ◆中国政治経済特講D【休講】 ◆中国学特講 [夏期集中講義]【休講】						16 以上	
	C群										◆中国語表現法演習 III a (読解応用)A【休講】 ◆中国語表現法演習 III a (HSK応用)C ◆中国語表現法演習 III b (会話)A【休講】 ◆中国語表現法演習 III b (翻訳)C		◆中国語表現法演習 III a (読解応用)B【休講】 ◆中国語表現法演習 III a (HSK応用)D ◆中国語表現法演習 III b (会話)B【休講】 ◆中国語表現法演習 III b (翻訳)D ◆中国語表現法演習 III c (社会事情)B【休講】 ◆中国語表現法演習 III c (ビジネス)D							
関連科目		情報処理 I		情報処理 II												24 以上				
		文化比較論 I		国際文化論 I		日本文化史 I		中国経済論 I				「卒業要件単位数」を超える専攻科目(A群・B群・C群), 全学共通科目(外国語科目・教養系科目), 「教職に関する科目」, 他学部他学科開講の専攻科目								
		文化比較論 II		国際文化論 II		日本文化史 II		中国経済論 II												
		文化比較論 III		国際文化論 III		ジャーナリズム論		アメリカ経済論 I												
		文化比較論 IV		国際文化論 IV		広告文化論		アメリカ経済論 II												
		文化比較論 V		国際文化論 V		観光論														

〔備考〕

- 1 ☆印は受講するクラスが指定される授業科目、◆は隔年開講科目を示す。

〔履修要件〕

- 1 同一授業科目を重複して履修することはできない。
- 2 一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は、その科目の単位数を二分割し、前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし、2年次および4年次に限り特別の事情のある者は、学部長に申請することにより、進級・卒業要件単位数の不足分を上限として、超過履修を許可される場合がある。なお、卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
- 3 専攻科目の中には履修資格や人数を制限する科目がある。
- 4 「中国学卒論演習B」は、原則として「中国学卒論演習A」を未修得のものは履修できない。
- 5 専攻科目のうち演習科目については、原則として他学部他学科の学生は履修することができない。ただし、学科および担当教員の認めた場合はこの限りではない。

〔コース制〕

- 1 2年次で学科所定の手続きにより、「言語コース」または「社会文化コース」のいずれかのコースを選択しなければならない。

〔進級要件〕

（2年次から3年次）

- 1 2年次終了までに、次の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち、60単位以上修得しなければならない。
- （1）外国語科目（英語）4単位以上。
  - （2）言語コース履修者は、1・2年次共通必修科目および特別必修科目群（言語コース）の中国語演習16単位以上。社会文化コース履修者は、1・2年次共通必修科目の中国語演習12単位以上。

〔学外単位認定制度〕

- 学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件単位数に算入することができる。なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限単位数に含める。ただし、2012年度以前の入学者については、各セメスターの履修制限単位数には含めない。
- 1 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
  - 2 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所定の手続きにより認定された単位。
  - 3 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で、本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

- 1 4年以上在学し、学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目 入学年度	共通科目						専攻科目						合計		
	F Y S	外国語科目 (英語)	教養系科目				共通科目合計	共通必修科目	特別必修科目群 (言語コース・社会文化コース)	選択必修科目				関連科目	専攻科目合計
			キャリア形成科目	人文の分野	社会の分野	自然の分野				健康科学の分野	A群	B群			
2011から 2013年度 入学	2	10		4	4	4	34	33	11	12	16	24	96	130	
			10												

- 2 共通科目「FYS」2単位を修得すること。
- 3 外国語科目は英語10単位を修得すること。
- 4 共通科目教養系科目については、次の単位を含めて22単位以上修得すること。ただし、キャリア形成科目の単位は卒業要件単位としては2単位までしか算入できない。
  - （1）人文の分野を4単位以上。
  - （2）社会の分野を4単位以上。
  - （3）自然の分野を4単位以上。
- 5 共通必修科目33単位を修得すること。
- 6 特別必修科目群11単位を修得すること。
- 7 選択必修科目A群から12単位以上修得すること。
- 8 選択必修科目B・C群から16単位以上修得すること。
- 9 「言語コース」履修者は、3年次（5セメスター、6セメスター）の選択必修科目C群（10科目）から2単位以上修得すること。
- 10 関連科目から24単位以上修得すること。
 

関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。

  - （1）共通科目（外国語科目・教養系科目）、専攻科目（A・B・C群科目）の「卒業要件単位数」を超える単位。外国語科目の中には中国語上級を含む。
  - （2）教職課程登録者が修得した「教職に関する科目」の単位。（上限6単位）
  - （3）他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし、他学部・他学科が受講を認めない科目については、履修することができない。

教育課程における標準年次の区切線について

- ① 標準年次が実線（——）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- ② 標準年次が破線（……）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できますが、〔履修要件〕等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。

4 履修案内  
2-2 専攻科目

国際文化交流学科

# 国際文化交流学科履修案内

(2010から2013年度入学者に適用)

## 【国際文化交流学科の教育目標】

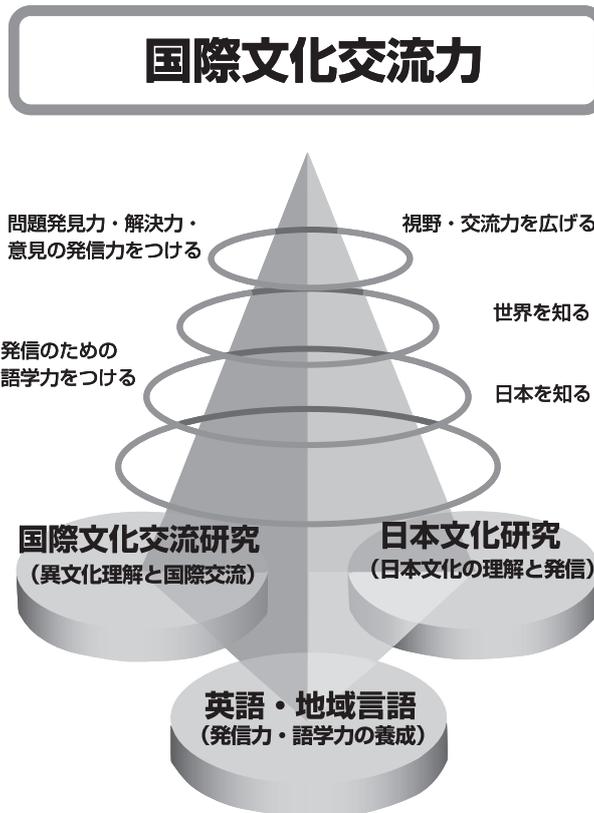
国際文化交流学科は、〈異文化交流〉、〈日本文化発信〉、〈外国語〉の三つの力を総合的に養成したいと考えている。言い換えれば、この学科に入学したあなた方一人ひとりが、文化の異なる人たちと共生しながら、日本文化を発信できる人になることを目指している。

日本文化と他の諸文化との共通点・相違点を理解し、文化の障壁を乗り越えながら、心を開いて異文化の人たちとコミュニケーションできる人。日本文化のなかの良いものを見極め、それを外国語で発信できる人。そうして、平和な世界を築き人類の文化を豊かにすることに貢献できる人。そういう人を育てるのが国際文化交流学科の願いである。

## 【カリキュラムの概要と特色】

国際文化交流学科のカリキュラムは上述の教育目標を実現できるように組み立ててある。その構造を理解しながら、科目を履修してほしい。

まず、カリキュラム全体の構造に注目してみよう。国際文化交流学科の科目を大きく捉えれば、〈日本文化研究〉、〈国際文化交流研究〉、〈英語・地域言語〉という三つの科目群が〈三位一体〉型に組み合わせられている。それぞれ、日本文化発信力、異文化交流力、外国語力を伸張させるのを主眼とする科目群である。これら三群の総合により、あなた方一人ひとりが、いわば〈国際文化交流力〉とでもいうべき力を身につけることになるのである。また、個々の科目は、一年次から四年次へ進むにつれて、導入・展開・総合という骨格に沿いながら配置されていて、無理なく力が養成されてゆくようになっている。



## 【専攻科目の履修要領】

以下の記述は、**教育課程表**を見ながら読んでほしい。なお、ここでは、それぞれの科目群の概略と注意事項だけを述べる。それぞれの科目の詳しい内容については**シラバス**を参照してほしい。

また、学科を卒業するための履修の仕方に関する重要事項は教育課程表のうしろに**履修要件・進級要件・卒業要件**と

してまとめられているので、しっかり読んでもらいたい。

## 1. 専門基幹科目（必修）

専門基幹科目は、国際文化交流学科における学修の骨格をなす科目群であり、すべて**必修**科目である。必修科目とは、卒業するためには必ず履修しなければならない科目という意味である。

### （1）国際文化交流入門（1年次・前学期）

これは、国際文化交流学科における学修への導入、並びに専門展開科目のなかの**国際文化交流研究科目群**への導入となる科目である。

### （2）日本文化研究入門（1年次・前学期）

専門展開科目のなかの**日本文化研究科目群**への導入をおこなう科目である。

### （3）国際文化交流基礎演習（1年次・後学期）

演習形式で、国際文化交流学科における学修の基礎作りをする科目である。20名程度の少人数制で指導がなされる。なお、**演習**とは、少人数制で討論や履修者による研究発表などを中心とする科目であることを示している。

### （4）国際文化交流専門演習ⅠA・B（2年次）

演習形式で教員の指導を受けながら、国際文化、日本文化及び文化比較に関する研究を深めていく科目である。同時に、問題の発見能力や解決能力、意見の発信力も育てていくことになる。

### （5）国際文化交流専門演習ⅡA・B（3年次）

演習形式で教員の指導を受けながら、国際文化、日本文化及び文化比較に関して研究した事柄を総合するとともに、応用力を育てる科目である。

### （6）英語（2～4年次）

共通科目の外国語科目としての英語（14単位必修）に加えて、さらに英語力を高めるために履修する科目群（4単位）である。

## 2. 専門展開科目

専門基幹科目を肉づけし、学修や研究の幅を広げ深化させる科目群であり、すべて**選択必修**科目である。選択必修科目とは、同一の選択必修科目群の中から授業科目を選択して履修し、卒業に必要な単位数を修得しなければならない科目という意味である。

### （1）英語（2～4年次）

この科目群から10単位を選択して修得しなければならない。共通科目の外国語科目としての英語、及び上述の専門基幹科目の英語と合わせて学修することにより、文化の発信と交流に不可欠な伝達手段を身につけてほしい。

### （2）地域言語（1，2年次）

①**ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語**のなかから一言語を選び、8単位修得しなければならない。世界は多様な地域社会により構成されている。個々の地域社会の言語を学修し、歴史や文化の成り立ちに対する知識を得ることで、より深い「国際文化交流力」が身につくことを意識し、しっかり学修してほしい。

②**日本語（1，2年次）**は、外国人留学生、又は帰国生徒などで日本語力が不足している者だけが履修できる科目である。

### （3）日本文化研究科目群、国際文化交流研究科目群

それぞれの科目群について7科目（14単位）以上、2つの科目群を合わせて17科目（34単位）以上を履修しなければならない。そうすることによって、豊かな知識と偏りのない視野とを身に付けてもらうようになっている。

#### ①日本文化研究科目（1～4年次）

国際的な文化交流には、日本文化を発信できる力が欠かせない。日本文化の多様な側面を深く学んで、明確に認識し、文化背景の異なる人に伝えられるようになってほしい。

#### ②国際文化交流研究科目（1～4年次）

世界各地の文化と現状を幅広く学ぶとともに、それらを日本文化と比較し、文化背景の異なる人たちと交流する際の問題点は何かを認識する科目群である。

### 3. 関連科目

#### (1) 日本語教育研究 (2, 3年次)

国際文化交流学科では、「日本語教員養成課程」(「資格教育課程」参照)の一部をなす科目群が、学科の卒業単位の算入可能な科目として開講されている。なお、「日本語教員」とは、外国人に日本語を教える教師を指している。

#### (2) 知識や視野を広げる科目、実技・実践科目 (1～4年次)

現代人には必須の「情報処理」や、「広告文化論」などの知識・視野の拡大に役立つ科目、「出版編集実務論」や「フィールド演習」のような実践科目が履修可能である。

#### (3) 地域言語特講 I・II (原則として3, 4年次)

ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語、日本語、スペイン語に関して多様な講義が開講される。

#### (4) 外国語学部ゼミナール I・II (2, 3年次)

演習形式で、教員の指導を受けながら研究を深め、問題の発見能力や解決能力、意見の発信力を育ててゆく科目である。教員の研究分野にしたがい、多様なゼミナールが開講される。

#### (5) 卒業研究 (4年次)

3年次の国際文化交流専門演習 II, 外国語学部ゼミナール II, 地域言語特講 I・II のいずれかの科目で指導を受けた教員が開講する卒業研究を選択して履修する。演習形式で、教員の指導を受けながら卒業論文を執筆し、研究の仕上げをおこなう科目である。

### 【履修モデル】

四年間の学修の道しるべとして、つぎのような履修モデルを参照するのもよいだろう。なお、当然ながら、どのモデルの場合にも、学科の卒業に必要な最小限の単位は科目群ごとにすべて履修しなければならない(たとえば日本文化研究の14単位以上など)。そのうえで、それぞれのモデルに必要な科目を重点履修するのだと考えてほしい。

### 1. 文化ビジネス・モデル ～国際感覚, 日本文化発信, 創造性～

#### 【趣旨】

国際社会の中で日本文化の特色を理解するとともに、日本文化を海外に向けて発信できる国際感覚豊かで創造的な人材の育成を目指す。

#### 【将来の職業】

旅行・観光業, 放送・マスコミ, 出版関係, 海外研修斡旋, 文化イベント企画など。

#### 【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

<b>国際文化交流学科開講科目</b>
英語選択必修科目から、英語日本文化演習、英語国際文化演習
日本文化研究科目から、日本文化論、日本芸能論、日本思想史、日本文化史
国際文化交流研究科目から、国際文化論、文化比較論、国際文化交流特論、国際事情
関連科目から、観光論、広告文化論、ジャーナリズム論、マスメディア論、出版編集実務論
<b>教養系科目</b>
日本史、文学、民俗学、宗教学
<b>法学部開講科目</b>
国際法、憲法、家族法
<b>経済学部開講科目</b>
国際ビジネスコミュニケーション、消費文化論、国際ビジネス論
<b>課外講座</b>
旅行業務取扱主任者講座

### 2. 観光学モデル ～草の根レベルの国際理解の助っ人～

#### 【趣旨】

庶民レベルでの国際的な相互理解を手助けする専門家になる。

#### 【将来の職業】

旅行代理店勤務, ホテルマン, フライト・アテンダント, 航空会社地上スタッフ, 旅行ガイド・通訳, など。

#### 【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

<b>国際文化交流学科開講科目</b>
英語選択必修科目から、英語日本文化演習、英語国際文化演習 日本文化研究科目から、日本文化論、日本芸能論、日本民俗学、日本文化史 国際文化交流研究科目から、国際文化論、文化比較論、国際事情 関連科目から、観光論、経済地理、国際経済学
<b>教養系科目</b>
芸術論（美術）、芸術論（音楽）、人文地理学、地理学（含地誌）、文化人類学、環境科学
<b>工学部開講科目</b>
建築史、都市デザイン論
<b>経済学部開講科目</b>
自然地理学、交通論、流通論、環境経済論、マーケティング
<b>課外講座</b>
旅行業務取扱主任者講座

### 3. 日本語教員モデル ～日本語を学びたい人は世界各地に～

#### 【趣旨】

日本語教員に必要な言語学や日本語教育学の基礎知識を獲得し、言語と行動、言語と社会について分析する視点を身につける。日本語教員を目指す人は、国際文化交流学科の科目に加えて、資格課程の**日本語教員養成課程**に登録し、所定の科目を履修する必要がある。（**資格教育課程**参照）

#### 【将来の職業】

日本語教員（国内の大学・日本語学校、海外の大学など）、地域日本語コーディネータ、JICA・国際交流基金等による海外派遣（日本語教育担当）、言語学・応用言語学系の大学院への進学。

#### 【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。

<b>国際文化交流学科開講科目</b>
日本語教育研究科目から、言語学概論、対照言語学、社会言語学、現代日本語学Ⅰ、現代日本語学Ⅱ、現代日本語学Ⅲ、言語習得論Ⅰ、言語習得論Ⅱ、日本語教育学Ⅰ、日本語教育学Ⅱなど
<b>教養系科目</b>
言語学、日本語学など

### 4. 博物館学芸員モデル ～歴史・文化をより多くの人たちに～

#### 【趣旨】

博物館は歴史・芸術・民俗などに関する資料を収集・保管して調査・研究をおこなうとともに、展示という手段を通して人々が歴史や文化に親しみ、関心を高めてもらうための場を提供する社会的役割を担っている。そのため、博物館の学芸員をめざす者は、日本の歴史・文化・民俗全般に通じ、調査・研究に必要な知識と技術を習得するとともに、その成果を広く人々に訴えかけるためのノウハウを身につける必要がある。**資格教育課程履修要覧**が定める学芸員の資格取得のための**学芸員課程**に関する科目以外にも次のような科目を習得しておくことが望ましい。

#### 【将来の職業】

博物館学芸員、大学院歴史民俗資料学研究科など歴史民俗系大学院への進学。

#### 【履修科目モデル】

特に次のような科目を履修するとよい。（\*印は「学芸員に関する科目」に含まれるもの）

<b>国際文化交流学科開講科目</b>
日本文化研究科目から、日本文化論、日本芸能論*、日本思想史、日本民俗学*、日本文化史*、文化資料学、文化受容論など 関連科目から、観光論、出版編集実務論など
<b>教養系科目</b>
日本史*、考古学*、民俗学*、文化人類学*、人文地理学、地理学（含地誌）など

### 5. 二言語重点モデル ～英語圏を越えて活躍～

#### 【趣旨】

英語は国際的に最も重要な言語ではあるが、英語以外の言語が必要な場合も少なくはない。英語に加えて、地域言語

(ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・中国語・韓国語から選択)も必修の単位数を超えて学べば、より高度な語学力が養成され、英語圏以外での活躍の道も開ける。なお、国際人としての素養を高めるには、言語だけではなく、その地域の文化や歴史などの様々な知識を身に付けることも必要である。希望する進路によっては、他の履修モデルと組み合わせることも効果的である。

**【将来の職業】**

海外(英語圏及び選択した言語の地域)に展開する商社・金融機関・製造業・サービス業、又は旅行業・観光業(日本からの海外旅行に関する業種、外国からの観光客の受け入れに関する業種)

**【履修科目モデル】**

特に次のような科目を履修するとよい。

<b>国際文化交流学科開講科目</b>
英語の必修科目・選択必修科目 地域言語選択必修科目から、入門〇〇語、応用〇〇語(いずれかの言語を選択) 国際文化交流研究選択必修科目から、選択した言語の地域に関連する国際文化論、文化比較論、国際事情など 関連科目から、地域言語特講〇〇語(スペイン語以外)
<b>外国語科目</b>
〇〇語中級、〇〇語上級
<b>教養系科目・他学部他学科科目</b>
選択した言語の地域に関連する科目

**【その他の注意事項】**

1. 本学科を卒業するためには合計128単位以上の修得が必要だが、科目群ごとに最小限の履修単位が定められているので、卒業要件一覧表をよく参照すること。
2. 2年次から3年次へ進級するためには、FYS 2単位、国際文化交流基礎演習 2単位、英語 10単位以上をふくめて、60単位以上を修得しなければならないので注意すること。
3. 「外国語科目」としては英語を必修としている。学科専攻科目としての英語とあわせ、全体で28単位の英語科目の修得が必要である。
4. TOEIC®を3回学内で受験することになっている。その成績によって6単位まで認定される制度もあるので、積極的にチャレンジすること(「各種検定合格者の単位認定に関する規程」参照)。
5. TOEIC®のほかにも、TOEFL®, 実用英語技能検定, 実用フランス語技能検定, ドイツ語技能検定, ロシア語能力検定 DELE : スペイン語技能検定, スペイン語技能検定, ハングル能力検定, 漢語水平考試などの単位認定制度がある(「各種検定試験合格者の単位認定に関する規程」参照)。
6. 本学が推薦する海外研修制度の所定プログラム(「海外語学研修」)を終了した場合には、6単位まで単位が認定される制度があるので、積極的に利用してほしい(海外語学研修の単位認定に関する取扱規程参照)。
7. 英語の教職課程を履修する場合、「教科に関する科目」は英語英文学科の開講科目を履修することになるが、20単位を上限として、国際文化交流学科の関連科目に算入できる。

以上

2017年度 外国語学部国際文化交流学科 教育課程表(2010から2013年度入学者に適用)

(学年は標準年次を示す)

専攻	科目群名	1年次		2年次				3年次				4年次				卒業要件 単位数				
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		5セメスター		6セメスター		7セメスター			8セメスター			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		授業科目	単位		
専攻	必修	国際文化交流入門	○2	国際文化交流基礎演習	○2	国際文化交流専門演習ⅠA	○2	国際文化交流専門演習ⅠB	○2	国際文化交流専門演習ⅡA	○2	国際文化交流専門演習ⅡB	○2					14		
		日本語文化研究入門	○2																18	
	選択必修	英語			英語表現演習AⅠ	○1	英語表現演習AⅡ	○1	英語表現演習BⅠ	○1	英語表現演習BⅡ	○1						4		
		英語	英語日本文化演習Ⅰ	1	英語日本文化演習Ⅱ	1	英語分野演習AⅠ	1	英語分野演習AⅡ	1	英語研究A	2							10	
			英語国際文化演習Ⅰ	1	英語国際文化演習Ⅱ	1	英語分野演習BⅠ	1	英語分野演習BⅡ	1	英語研究B	2								
			英語CALL/LL演習Ⅰ	1	英語CALL/LL演習Ⅱ	1	英語分野演習CⅠ	1	英語分野演習CⅡ	1	英語海外研修	2								
		地域言語	入門ドイツ語AⅠ	1	入門ドイツ語AⅡ	1	応用ドイツ語AⅠ	1	応用ドイツ語AⅡ	1										同一言語 8
			入門ドイツ語BⅠ	1	入門ドイツ語BⅡ	1	応用ドイツ語BⅠ	1	応用ドイツ語BⅡ	1										
			入門フランス語AⅠ	1	入門フランス語AⅡ	1	応用フランス語AⅠ	1	応用フランス語AⅡ	1										
			入門フランス語BⅠ	1	入門フランス語BⅡ	1	応用フランス語BⅠ	1	応用フランス語BⅡ	1										
入門スペイン語AⅠ	1		入門スペイン語AⅡ	1	応用スペイン語AⅠ	1	応用スペイン語AⅡ	1												
入門スペイン語BⅠ	1		入門スペイン語BⅡ	1	応用スペイン語BⅠ	1	応用スペイン語BⅡ	1												
入門ロシア語AⅠ	1		入門ロシア語AⅡ	1	応用ロシア語AⅠ	1	応用ロシア語AⅡ	1												
入門ロシア語BⅠ	1		入門ロシア語BⅡ	1	応用ロシア語BⅠ	1	応用ロシア語BⅡ	1												
入門中国語AⅠ	1		入門中国語AⅡ	1	応用中国語AⅠ	1	応用中国語AⅡ	1												
入門中国語BⅠ	1		入門中国語BⅡ	1	応用中国語BⅠ	1	応用中国語BⅡ	1												
日本語教育研究	入門韓国語AⅠ	1	入門韓国語AⅡ	1	応用韓国語AⅠ	1	応用韓国語AⅡ	1										14 以上		
	入門韓国語BⅠ	1	入門韓国語BⅡ	1	応用韓国語BⅠ	1	応用韓国語BⅡ	1												
	日本語(総合1)Ⅰ	1	日本語(総合1)Ⅱ	1																
	日本語(総合2)Ⅰ	1	日本語(総合2)Ⅱ	1																
	日本語(作文1)Ⅰ	1	日本語(作文1)Ⅱ	1																
	日本語(作文2)Ⅰ	1	日本語(作文2)Ⅱ	1																
	日本語(応用1)Ⅰ	1	日本語(応用1)Ⅱ	1																
	日本語(応用2)Ⅰ	1	日本語(応用2)Ⅱ	1																
	日本文化論Ⅰ	2	日本文化論Ⅳ	2	日本文化論Ⅶ	2	日本思想史	2	日本民俗学	2	日本文化史Ⅰ	2							34	
	日本文化論Ⅱ	2	日本文化論Ⅴ	2	日本芸能論Ⅰ	2	文化資料学	2	文化受容論	2	日本文化史Ⅱ	2								
国際文化交流研究	日本文化論Ⅲ	2	日本文化論Ⅵ	2	日本芸能論Ⅱ	2	国際日本学【休講】	2										14 以上		
	国際文化論Ⅰ	2	国際文化論Ⅳ	2	国際文化論Ⅶ	2	文化比較論Ⅰ	2	文化比較論Ⅳ	2	国際事情Ⅰ	2	国際事情Ⅳ	2						
	国際文化論Ⅱ	2	国際文化論Ⅴ	2	国際文化論Ⅷ	2	文化比較論Ⅱ	2	文化比較論Ⅴ	2	国際事情Ⅱ	2	国際事情Ⅴ	2						
日本語教育研究	国際文化論Ⅲ	2	国際文化論Ⅵ	2	国際文化交流特論	2	文化比較論Ⅲ	2	国際理解論	2	国際事情Ⅲ	2	国際事情Ⅵ	2				20		
	現代日本語学Ⅰ	2	★現代日本語学Ⅱ	2	日本語教育学Ⅰ	2	日本語教育学Ⅱ	2												
	言語習得論Ⅰ	2	現代日本語学Ⅲ	2																
	★言語習得論Ⅱ	2	対照言語学	2																
	言語学概論	2																		
	★社会言語学	2																		
	情報処理Ⅰ	2	情報処理Ⅱ	2																
	国際法Ⅰ	2	国際法Ⅱ	2	マス・メディア論	2	出版編集実務論	2	地域言語特講ドイツ語Ⅰ	2	地域言語特講ドイツ語Ⅱ	2								
	国際政治学Ⅰ	2	国際政治学Ⅱ	2	ジャーナリズム論	2	広告文化論	2	地域言語特講フランス語Ⅰ	2	地域言語特講フランス語Ⅱ	2								
	経済地理Ⅰ	2	経済地理Ⅱ	2	観光論	2			地域言語特講ロシア語Ⅰ	2	地域言語特講ロシア語Ⅱ	2								
開発経済学Ⅰ	2	開発経済学Ⅱ	2	イタリア語Ⅰ	1	イタリア語Ⅱ	1	地域言語特講中国語Ⅰ	2	地域言語特講中国語Ⅱ	2									
国際経済学Ⅰ	2	国際経済学Ⅱ	2	イタリア語Ⅲ	1	イタリア語Ⅳ	1	地域言語特講韓国語Ⅰ	2	地域言語特講韓国語Ⅱ	2									
フィールドワーク入門Ⅰ【休講】	2	フィールドワーク入門Ⅱ	2	留学生対象日本語演習Ⅰ【休講】	1	留学生対象日本語演習Ⅱ【休講】	1	地域言語特講日本語Ⅰ	2	地域言語特講日本語Ⅱ	2									
				留学生対象日中翻訳	1	留学生対象中日翻訳	1													
				外国語学部ゼミナールⅠ				4	外国語学部ゼミナールⅡ				4							
				卒業研究												4				

教養系科目、外国語科目中級・上級、「教職に関する科目」、他学部他学科開講の専攻科目

〔備考〕

- 1 ○印は必修科目を示す。
- 2 ★印は学期変更の授業科目を示す。

〔履修要件〕

- 1 同一授業科目を重複して履修することはできない。
- 2 一年間の履修単位数は各年次48単位（半期24単位）を上限とする（通年科目を履修した場合は、その科目の単位数を二分割し、前学期・後学期それぞれの学期の単位数として換算する）。ただし、キャリア形成科目はこの上限に算入しない。また、2年次及び4年次に限り特別の事情のある者は、学部長に申請することにより、進級・卒業要件単位数の不足分を上限として、超過履修を許可される場合がある。なお、卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
- 3 地域言語の「日本語」は外国人留学生（外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）含む）を対象とした授業科目であり、履修には資格認定を必要とする。
- 4 専攻科目のうち演習科目については、原則として他学部・他学科の学生は履修することができない。ただし、スペイン語学科「英語コミュニケーション特修副専攻」の学生は、専門基幹科目の必修英語科目群、および専門展開科目の選択必修英語科目群を履修することができる。
- 5 他学部・他学科の学生で日本語教員養成課程未登録者は、原則として日本語教育研究科目群を履修することができない。

〔進級要件〕

（2年次から3年次）

- 1 2年次終了までに、次の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち、60単位以上修得しなければならない。
  - (1) 「FYS (First Year Seminar)」 2単位。
  - (2) 「国際文化交流基礎演習」 2単位。
  - (3) 外国語科目（英語）10単位以上。

〔学外単位認定制度〕

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件単位に算入することができる。なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限単位数に含める。ただし、2012年度以前の入学者については、各セメスターの履修制限単位数には含めない。

- 1 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 2 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所定の手続きにより認定された単位。
- 3 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で、本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

- 1 4年以上在学し、学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目    入学年度	共通科目							専攻科目						合 計			
	F Y S	外国語科目 (英語)	教養系科目				共通科目合計	専門基幹科目		専門展開科目					関 連 科 目	専 攻 科 目 合 計	
			キャリア形成科目	人文の分野	社会の分野	自然の分野		健康科学の分野	必修	必修(英語)	選択必修(英語)	選択必修(地域言語)	選択必修(日本文化研究)				選択必修(国際文化交流研究)
2010から 2013年度入学	2	14	-	4	4	4	38	14	4	10	8	14	14	20	90	128	
				10								6					

- 2 共通科目「FYS」2単位を修得すること。
- 3 外国語科目は英語を14単位以上修得すること。
- 4 教養系科目については、次の単位を含めて22単位以上修得すること。ただし、キャリア形成科目は、卒業要件単位に算入しない。
  - (1) 人文の分野を4単位以上。
  - (2) 社会の分野を4単位以上。
  - (3) 自然の分野を4単位以上。
- 5 専門基幹科目18単位を修得すること。
- 6 専門展開科目から次の単位を含めて52単位以上修得すること。
  - (1) 選択必修科目の英語科目群から10単位以上。
  - (2) 選択必修科目の地域言語科目群から、同一言語8単位。
  - (3) 選択必修科目の日本文化研究科目群、国際文化交流研究科目群それぞれ14単位以上、計34単位以上。
- 7 関連科目から20単位以上修得すること。  
関連科目の単位として算入できるものは次のとおりとする。
  - (1) 教養系科目の「卒業要件単位数」を超える単位。(上限6単位)
  - (2) 外国語科目中・上級の単位。(上限6単位)
  - (3) 教職課程登録者が修得した「教職に関する科目」の単位。(上限6単位)
  - (4) 他学部他学科開講の専攻科目の単位。ただし、他学部・他学科が受講を認めない科目については履修することができない。

— 教育課程における標準年次の区切線について —

- ① 標準年次が実線（——）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- ② 標準年次が破線（……）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できますが、〔履修要件〕等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。